

「欧州復興開発銀行（EBRD）の現場を体験して」

産業技術大学院大学経営倫理研究所内 EIIT 所長 中沢賢治

冷戦終了後の 1991 年に旧ソ連地域の復興と市場経済への移行を支援するために設立された欧州復興開発銀行(EBRD)に 1993 年 1 月に入行しました。世銀グループの中核機関である国際復興開発銀行（IBRD）と EBRD との英文名は良く似ています。第二次世界大戦の終了後敗戦国と旧植民地諸国の復興と発展のために設立されブレトンウッズ体制を担ってきたのは世界銀行グループと国際通貨基金(IMF)でした。米国ワシントン D C に本部のある国際復興開発銀行(IBRD)は世銀グループの中核機関です。ほぼ半世紀を経て冷戦が終結した時に設立されたのがロンドンに本部をおく EBRD です。

第二次世界大戦後に設立された主な国際金融機関（他にも多くの多国籍金融機関が存在）

1945 年 国際復興開発銀行(IBRD)・国際通貨基金（IMF）、1956 年 IFC、1960 年 IDA、1988 年 MIGA。

1959 年米州開発銀行（IDB）、1964 年アフリカ開発銀行（AfDB）、1966 年アジア開発銀行（ADB）、1991 年欧州復興開発銀行（EBRD）

1991 年 1 月に着任したウィーンに本部のある国連工業開発機関（UNIDO）を経て、EBRD に移ってからは本部のバンカーとしてアゼルバイジャン、ジョージアの電力プロジェクトを 6 年半担当しました。1999 年からはウズベキスタン、マケドニア、コソボ、キルギス共和国で EBRD の現地代表を 12 年務めました。再び本部に戻ってからは銀行局で地元企業向け技術支援と投融資業務の連携強化を図る仕事の責任者となりました。2015 年の秋に退職するまで 23 年を EBRD で過ごしました。EU は EBRD の発足以来の株主です。発足から 1990 年代を通じて EBRD の活動は中・東欧地域が中心であり、EBRD はこれらの地域の国々の EU 加盟準備を支援する機関としての役割を果たしました。1998 年からいくつかの国々で E U 加盟交渉が始まり、2004 年から 2007 年までに 10 カ国が EU 加盟を果たしました。

1998 年	チェコ、エストニア、ハンガリー、ポーランド、スロベニアの EU 加盟交渉開始
2000 年	ブルガリア、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、スロバキアの EU 加盟交渉開始
2004 年	チェコ、スロバキア、ハンガリー、ポーランド、スロベニア、バルト 3 国の 8 か国が EU 加盟
2007 年	ブルガリア、ルーマニアが EU 加盟、チェコは EBRD の活動対象国から卒業
現在	EU の拡大の動きは止まったまま（クロアチア、北マケドニア、アルバニア、トルコは EU 加盟候補国）

EBRD 地理的拡大

EBRD の当初の目的であった東欧諸国の EU 加盟支援が一巡すると、EBRD はいつまで存続すべきかという議論が起きました。EBRD 解消などの声もありましたが、EBRD の活動が十分でない地域にシフトすべきという方向に議論は進展し、新たにモンゴル、トルコでの活動が認められました。この西から東へのシフトの議論は 2008 年の世界金融危機で変化しました。危機への対応で EBRD の業務量は東欧地域を含めて急増します。さらに 2011 年のアラブの春に対応して北アフリカ、中東へとその活動地域が拡大しました。私が 2 度目の本部勤務で所属した中小企業支援(SBS)チームはエジプト、モロッコ、チュニジア、ヨルダン他で EBRD が業務を展開するための準備作業を行いました。

2006 年	モンゴルが活動対象国となる。
2008 年	トルコが活動対象国となる。
2011 年	1 月、チュニジア、ジャスミン革命、2 月、エジプト、ムバラク政権崩壊
2012 年	エジプトが活動対象国となる。
2013 年	ジョルダン、モロッコ、チュニジアが活動対象国となる。
2014 年	キプロスが活動対象国となる。リビアが EBRD 加盟国となる。
2015 年	ギリシャが活動対象国となる（2020 年までの限定付き）。中国が EBRD 加盟国となる。

中央アジアの国 ウズベキスタン（人口 3240 万人、44 万平方 km、日本の 1.2 倍の国土）

中央アジアは中国にとっては「西域」であり、オスマン・トルコが勢力を持った時代からは西側にとって「トルキスタン」と呼ばれる地域の一部でした。19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて中央アジアが地政学上の要衝であったことがピーター・ホップカーク著「ザ・グレートゲーム」という本に描かれています。20 世紀になって旧ソ連が成立すると 1991 年に崩壊するまでは中央アジアの国々の名前が世界地図上から消えていました。わたしが旧ソ連 4 番目の大都市だったタシケントに赴任したのは 1999 年の 4 月でした。その直後にケーラーEBRD 総裁(その後、IMF 総裁を経てドイツ大統領)の訪問に随行してチムール帝国の古都サマルカンドを訪れました。アフロシアブの丘の博物館に保存されている壁画に古代の東西交渉の様子が描かれています。中央アジアがアレキサンダー大王の遠征地だったことをしのばせる遺跡です。

アフロシアブの壁画

サマルカンドの青いタイル

ブハラのマドラサ

アラル海の船の墓場



タシケントは天山山脈のふもとのオアシス都市です。天山山脈に源を発してアラル海に東から入るのがシルダリヤ川、パミール高原、ヒンドークシ山脈に源を発して、アラル海に南から入るのがアムダリヤ川です。二つの大河に挟まれた地域はソグディアナと呼ばれました。夏には 45 度を越す暑さです。バザールに出まわるスイカ、メロン、トマトなどが素晴らしい。道端に鉄パイプのベッドをおいて西瓜の山を売る人たちの姿が夏の風物詩です。春の桜や杏子の花、夏のバラやグラジオラスが咲き乱れるのは見事な景観です。中央アジア全体を見渡すとオアシス地帯とその下流地域の間での水の配分は深刻な課題です。旧ソ連時代の綿花栽培で灌漑に水を使い過ぎたことが、環境被害につながりました。

中央アジアの国 キルギス共和国（人口 610 万人、19 万平方 km、日本のほぼ半分の国土）

タシケントの次にバルカン半島の国北マケドニアの首都スコピエに駐在しました。2007 年秋から再び中央アジア勤務となり 2011 年の夏までキルギス共和国の首都ビシュケクで暮らしました。キルギス共和国は山と湖に囲まれたとても美しい国です。1990 年代にロンドン本部から何度も出張しており、わたしにとって中央アジアとの出会いとなった国です。カザフスタン国境に近いタラス地方の送電線網のリハビリ工事案件のチーム・リーダーでした。タラスは 751 年の夏に唐とイスラム帝国アッバース朝（サラセン帝国）が中央アジアの覇権をめぐって激突した古戦場です。現地の部族がイスラム軍側についたため 3 万の唐軍は大敗し、中央アジアはイスラム勢力圏となりました。元の時代を除くと険しい天山山脈を隔てた新疆地方までが中国王朝の勢力圏となりました。

ユルタ(移動式の天幕)



羊飼いと羊の群れ



イシク・クル湖と天山山脈



2010 年の政変



2010 年 4 月 7 日の政変に遭遇したのは忘れられない記憶です。ビシュケクの大統領官邸前で大規模な騒乱となりました。自宅で不安な夜を過ごし、翌日からキルギスの友人の家に避難させてもらいました。2008 年の金融危機の後、ロシアやカザフスタンに出稼ぎに行った働き手からの送金が減少しました。厳寒の長い冬を経て、春先は人々の生活が厳しくなります。2010 年初めに電気、ガス、電話など公共料金の値上げが発表されると人々の不満は高まりました。国有企業の私物化などが国際ニュースで流れると政権への不信感が高まり、人々の怒りは爆発しました。

中央アジアの国 タジキスタン（人口 930 万人、14 万平方 km の国土、日本のほぼ 40%）

フジャント空港で

イスカンドル湖への山道

ヌレクダム湖

古代ペンジケントの遺跡



タジキスタンは世界の屋根パミール高原の西側に位置する山国です。フジャンドを中心とする北部とドシャンベを中心とする南部に分かれています。1991 年の独立の後で、1992 年から 1997 年まで内戦が続きました。国連タジキスタン監視団に政務官として参加されていた秋野豊氏が 1998 年に殉職されたのは、わたしが隣国ウズベキスタンに赴任する一年前のことです。犠牲となられた方々のご冥福とこの国の発展を祈らずにはいられません。ロシア他に働きに行った人たちからの送金が GDP の 40%あまりを占めています。水力資源の豊富なこの国では既存のヌレク水力発電所に加えて、国の命運をかけてのログン水力発電所建設事業も進められています。若者たちが国内で働き先を得ることができるよう地域の中小企業を育成し、雇用機会を増やすことがこの国の経済発展に向けての重要な課題です。

この国の人々はファルシ（ペルシャ語系）を話します。中央アジアがペルシャ帝国の東端だった時代の名残です。北部のフェルガナ渓谷周辺の国境線は複雑に入り組んでいます。フジャントにはタシケントから車で訪れる方が近く、農産物加工や空港整備のプロジェクトのモニタリングのために何度も通いました。作家井上靖の短編集「崑崙の玉」にタジキスタンを舞台にした「古代ペンジケント」があります。文豪夏目漱石の門人でわたしの郷里である長岡出身の松岡譲が書いた「敦煌物語」（昭和 18 年刊行）という本があります。井上さんはこの本を読んで西域に憧れたことを随筆にしています。中央アジアは興味の尽きない地域です。